

## 連携機関ご紹介コーナー

## 平原内科医院

院長 平原 理策 Risaku Hirabara

 昭和61年／東京慈恵会医科大学医学部 卒業  
平成3年／開業


**趣味**／趣味と言える程の趣味ではありませんが、車をメンテナンスしたり工具を集めたりするのが好きです。人も車も治る(直る)とうれしいです。20年間位同じ車に乗り続けています。若い時から車は好きでした。

**健康法**／自己診断しないで早めにお医者さんにかかることです。自分以外のお医者さんにちゃんと診てもらおうようにしています。

**モットー(大切にしている事)**／分かりやすく親切に 正直に  
**リフレッシュ法**／安くて美味しいものを食べに行ったり、住んでいる所からシネコンが近いので、仕事が終わってから映画のレイトショーを観に行ったりします。



## 毎日の診療で大切にされていることは何ですか……

「病気を診ずして病人を診よ」は慈恵医大の学祖である高木兼寛先生(たかきかねひろ)の言葉です。この言葉を大切に患者さんを全人的に診るように心がけています。

## 自院のやりがいは何ですか……

当院をかかりつけとしてくださる患者さんがいらっしやることは、大変ありがたいことと思っています。患者さんから多くのことを学び、その経験を他の患者さんに役立てることができたときはやりがいを感じます。吉田総合病院へ紹介して精密検査の結果を受け、自分の診断で合っていたかどうか答え合わせさせていただきます。ありがとうございます。

## JA吉田総合病院に望むこと……



諸先生はじめ看護師や職員の皆様には、日頃から大変お世話になっております。今後ともご支援よろしくお願いたします!

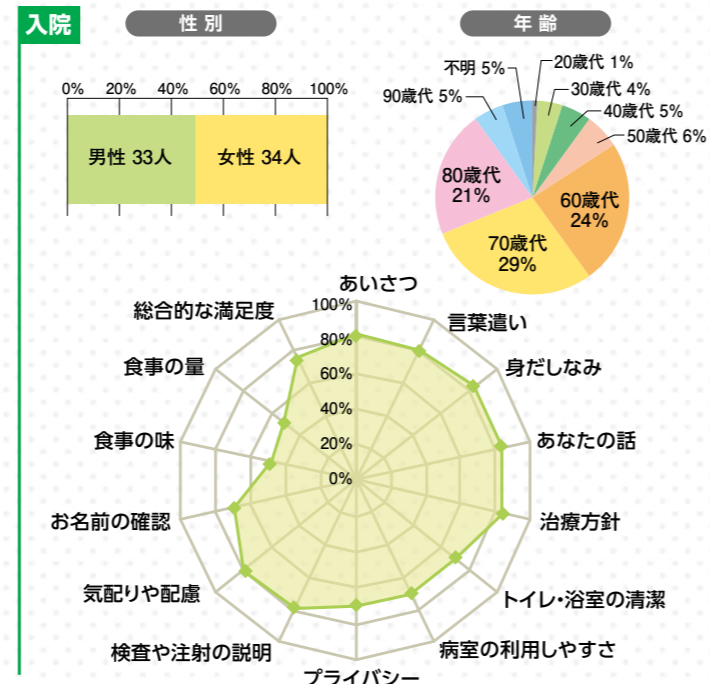
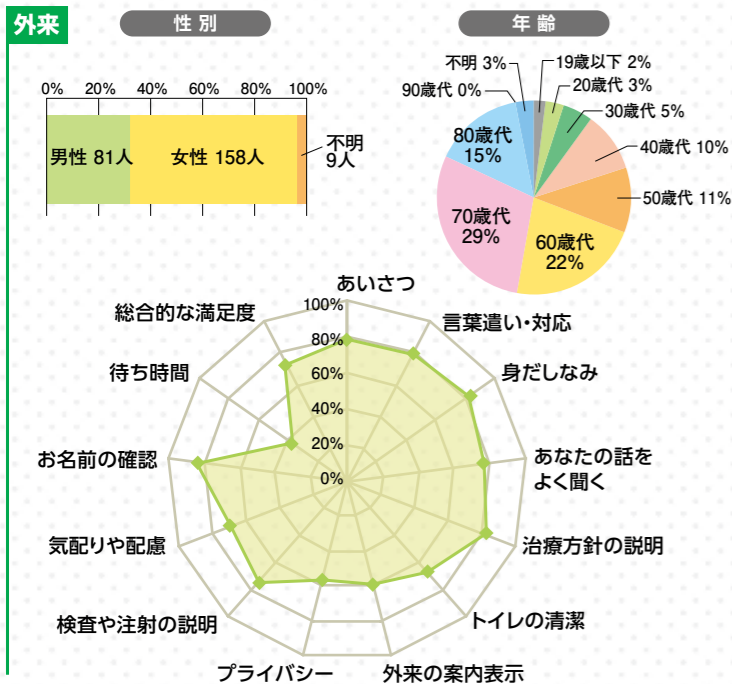


## 平原内科医院

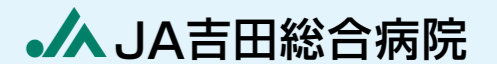
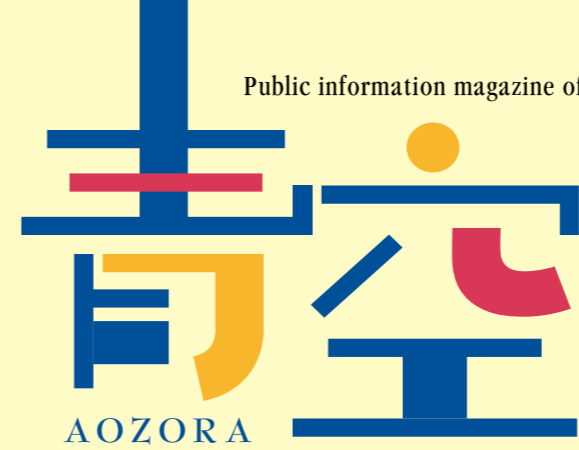
住 所 安芸高田市吉田町吉田1210-1  
開 院 平成3年  
標榜科 内科

## 平成29年度 患者様満足度調査

当院では毎年1回、外来・入院患者様を対象に満足度調査を実施しております。今回も多数の患者様にご協力いただきましてありがとうございました。今後も業務の改善と患者サービス向上に努めて参りますので、お気づきの点がございましたら院内のご意見箱へお願いいたします。



※パーセンテージは満足されている方の割合です。



発行/広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院  
〒731-0595 広島県安芸高田市吉田町吉田3666  
Tel.0826-42-0636 Fax.0826-47-0007  
2017年(平成29年)12月発行  
http://yoshida-gene-hospi.jp/

Facebookを開きました



やさしい心で  
良質な医療を

今どきの  
話題

 安芸高田市における  
ERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)治療について

内科主任部長 石飛 朋和



昨年4月吉田総合病院内科へ赴任しました。初年度、第2回安芸高田市市民公開講座にて、「安芸高田市における吉田総合病院内科の肝胆膵疾患診療」というタイトルでお話をさせていただきました。そして今回、「安芸高田市におけるERCP治療について」というタイトルで、今年10月までの1年半の経過をお伝えしたいと思います。

医師会の先生方のお力添えもあり当科の肝胆膵疾患も増えております。その分患者様には診察の待ち時間も長くなってしまいご迷惑をおかけしております。中でも特にERCPの件数が増えています。私の赴任前は、ややリスクもあり難しい手技なこともあり、基本は非常勤医師が待機的に行い年間30件前後でしたが、昨年度からは緊急対応も行うようにし年間49件でした。今年度10月18日現在、半年で52件とさらに増加

※ERCP:内視鏡を使って胆管・膵管を造影する検査

基本理念

1. 私たちは何人にも平等に医療を提供します。
2. 私たちは地域の基幹病院として、最良の医療を提供します。
3. 私たちは納得と同意のもとに信頼される医療を提供します。

基本方針

1. やさしい心で安全・良質な医療・保健・福祉サービスを提供します。
2. 医療を受ける人びとの人格、権利を尊重し、全ての人に貢献します。
3. 生涯学習の精神を保ち、知識と技術の習得に努めるとともに、医療の質向上に尽くします。
4. 努力と強調で健全経営に努め、明るい職場をつくります。
5. 病院の公共性を重んじ、事業を通じて地域に尽くすとともに、法規を遵守します。

中です。ERCPとは特殊な胃カメラを用いて行う手技です。総胆管結石や胆管癌や膵癌など、それに伴う胆管炎や閉塞性黄疸などに対し検査・診断し方針を決めます。さらに続けて総胆管結石の採石や、ステント(チューブ)を入れて閉塞を解除したりなどの治療を行います。胆管炎は敗血症など重篤になりやすいため必要に応じERCPなどの緊急治療をしております。総胆管結石による胆管炎の方は多くいらっしゃいます。

ERCP治療は、ほとんどの方は当院で完遂できますが、中には胆道・膵管は個人差が多いのもあり、必要に応じてマンパワーや設備・機器のより良い病院へお願いすることもあります。その際は、相談の上、各患者様に合わせ、これまでのコネクションを活かし、各病院へ紹介させていただきます。また、ERCPは楽な検査治療とは言えないので、ご高齢な方等、各患者様のご負担になりすぎないように気

を付けて行っています。

こちらに来て、他にも様々な肝炎(B型肝炎・C型肝炎・脂肪性肝炎・アルコール性肝炎など)、肝硬変、食道静脈瘤、肝癌、肝膿瘍、胆嚢炎、胆嚢結石、膵炎、十二指腸乳頭部癌等々の肝胆膵疾患の方もおられました。肝癌の高リスクであるC型肝炎も、外来通院で内服治療にて無難にウイルス消失した方が増えておりますので、お気軽にご相談いただければと思います。

また、患者様が徐々に増えておりますので、医師会の先生方との併診などの連携が必要と考えております。

私のこれまで学んできたことやコネクションが、この地域の各々の患者様に合わせた診療提供のお役に立てればと思います。



平成29年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

## 第2回 多職種連携研修会

テーマ『相談支援・無理のない連携と事例検討～支える人も、支えられる人も仲間～』

【日時】平成29年10月3日(火) 18:30～20:30 【参加者】61名

【会場】JA吉田総合病院 南館4階 大会議室 【対象】安芸高田市内の医療・介護・福祉関連事業者

講師に広島地方検察庁刑事政策課 総合支援課 社会福祉アドバイザー田中洋子氏を迎え、安芸高田市の医療・介護・福祉に従事する方を対象に研修会を開催しました。

田中先生の講演は、社会福祉の観点から、支える人・支えられる人への相談援助の定義、援助技術の基本、援助者の基本的態度の原則、総合相談の実践について、ご自身の経験を踏まえた分かりやすいものでした。

講義の中で、**ワンストップ**(1つの場所ですべてに対応する)・**総合相談**・**アウトリーチ**(潜在的な利用希望者に手を差し伸べること)が相談支援の実践において重要であること、また、多職種間の連携においては**のりしろ(仕事の共有部分)**を理解し、「ここまでしかしません」の拒否の姿勢ではなく、臨機応変に対応することが重要であることを学びました。

事例検討においては、各職種が当事者の生活の背景を想像し、今ある社会資源の活用、又は無いも

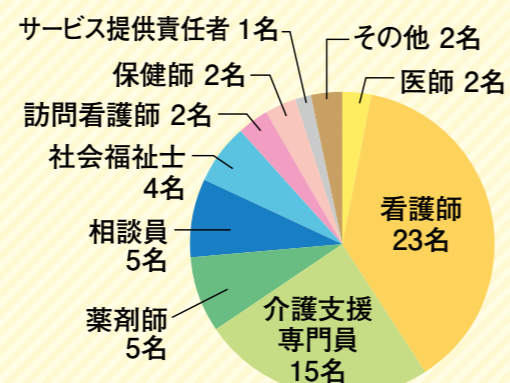


のについては、新たに創造をする機会となりました。田中先生の講義は、色々な組織・団体の垣根を超えた「困っている人のために」を強く意識させられる内容でした。研修会後の感想には、「どこでも総合相談の必要性・・・どこでも相談を受けられたら、ここではないと切らず、関係の部署へ必ず繋げる」「多職種で連携をとると専門職ならではの気付きがあり連携の強みがある。1人では出来ないことも、みんななら出来る。連携の必要性、人間関係の大切さを感じました」との意見がありました。

今後も連携における**のりしろ(仕事の共有部分)**を意識しつつ、誰もが住みやすい安芸高田市を、医療・介護連携推進事業を通して推進していきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



参加者職種内訳



第3回

## 市民公開講座

テーマ

### 「最期まで“笑顔”で生き抜く ～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～」



10月28日(土)安芸高田市民文化センターにおいて、「最期まで笑顔で生き抜く～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～」をテーマとした第3回市民公開講座を開催しました。この講座は平成29年度安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業として、安芸高田市・芸北地対協との共催で安芸高田市医師会他17団体のご後援をいただき、当日は370名余りの方々が参加されました。



オープニングはJA吉田総合病院看護科長会の「そよ風コーラス」の歌声でさわやかに幕開けしました。住元病院長・竹本副市長の開会挨拶後、JA吉田総合病院内科 影本賢一部長が「当院における消化管領域の内視鏡診断と治療」について、精神神経科 高石佳幸主任部長が「うつと不安の最近の話題」について講演しました。その後、病院職員等



つくる「劇団安芸☆高田」による寸劇にて、認知症の母を看取った家族が、母は本当に幸せだったか

を考える内容に、会場の皆様も一緒に考えました。

特別講演として、「がん、認知症、死ぬまでハッピー!」と題して、兵庫県尼崎市の医療法人社団裕和会理事長 長尾和宏氏による講演がありました。人は枯れるように亡くなっていくのが老衰、自然のことである。色々と管を付けてでも生きさせるのが本人のためになるのかを実例を交えながら問いかけ、家族の思いはどうあるべきかをみんなで考える時間となりました。

閉会後のアンケートには、「介護⇒快互へ。本人ではなく家族の対応で不安解消」「介護のあり方、看取りの方法など大変参考になりました」「特養に勤務しています。自分も含め皆が、ハッピーに暮らし最期を迎えることが出来るように、取り組んでいきたいと更に感じる事が出来た」等の色々な立場の意見・気付きの言葉をいただき、盛会にて安芸高田市医師会 会長 徳永先生の挨拶にて閉会しました。

今回で3回目ということもあり、参加された方も親しみを込めて、コーラス・劇・講演を傾聴され大変満足された市民公開講座となりました。ご参加・ご協力いただきました方々に厚くお礼を申し上げます。

